

社会福祉法人さぽうと 21

2018 年度 事業報告書



**「国籍やカタカナの名前で悩むこともあるかもしれない。
でも大切なのは、『自分がどうありたいか』という視点だと思う」**

毎年実施している「夏期研修会」は、日頃「日本人」に囲まれて生活する学生たちが、自分と同じような背景をもつ「外国にルーツのある」仲間と共に過ごせる貴重な機会でもあります。今年は社会人になった卒業生 13 名が参加し、「私のルーツとの向き合い方」というテーマで、経験から得た視点を多く共有してくれました。

(開催期間 : 2018 年 8 月 19 日(日) - 20 日(月) 1 泊 2 日)

社会福祉法人さぽうと 21 

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

TEL : 03-5449-1331 ・ E-mail : info@support21.or.jp

URL : <http://support21.or.jp/>

目次

2018年度 事業概要	1
I. 生計困難者に対する生活援助事業	2
1. 自立支援事業	
(i) 生活支援プログラム	2
(ii) 坪井一郎・仁子学生支援プログラム（通称：坪井基金）	3
(iii) パチンコ・パチスロ奨学金（略称：pp 奨学金）	4
(iv) 夏期研修会：私のルーツとの向き合い方	5
(v) 報告会・交流会：「人と環境」に優しい社会作り	7
(vi) キャリア支援：資格取得の応援 など	9
2. 学習支援室事業	
(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援	9
(ii) 学習支援室関連の行事等	11
(iii) 委託事業、助成金事業等の実施	12
II. 生計困難者に対する相談事業	16
III. 緊急支援	16
IV. 広報活動	17
V. 団体 / 企業によるご協力	18
VI. 役員一覧	19

社会福祉法人 さほうとにじゅういち

2018年度 事業概要

前身団体「インドシナ難民を助ける会」(現 AAR Japan [認定 NPO 法人難民を助ける会])が活動を開始してから間もなく 40 年を迎えます。当法人では、日本が受け入れた難民(インドシナ難民・条約難民・第三国定住難民)や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等が、日本で教育を修め、自立した生活につながるよう、主に教育面からの支援を続けています。

事業継続にあたり、本年度は、延べ 486 名・206 社の方々に、ご協力を賜りました。活動の充実にご賛同、ご協力くださった皆さまに、心より御礼申し上げます。以下に主な事業の概要をご報告いたします。

■ 自立支援事業（生活支援金の支給）

経済的に困難な学生が学業を継続できるよう、本年度も生活支援金の支給を行いました。難民などの外国出身の学生が対象の「生活支援プログラム」及び「坪井基金」では、計 53 名を支援しました。生活支援金を支給する他、学生同士のネットワーク形成やキャリア支援の一環で、「夏期研修会」の開催や資格取得を応援しました。また 2017 年度に発足した日本人(元外国籍を含む)の学生を対象とする「pp 奨学金(パチンコ・パチスロ奨学金)」では、新たに永住者も対象に加え、計 22 名を支援しました。

■ 学習支援室事業（学習支援室の運営）

「学習支援室」では、本年度もボランティア講師協力のもと、「目黒教室(土曜日)」と、昨年度から開講した「東部教室(日曜日)」にて、日本語や学校教科の補完等を中心に、学習の場を提供しました。その他、文化庁からの委託事業である「生活者としての外国人」のための日本語教育事業により、各種研修、初級者向け日本語教室、教材作成を行いました。また 2016 年度から始動した(一財)柳井正財団及び明治学院大学との協働事業である、「集中学習支援教室」も、春休みと夏休み期間中に開催しました。

縁あって日本で暮らすことになった難民などの外国出身者のより良い定住に向け、活動を続けてまいりますので、引き続きご支援の程、よろしくお願い致します。



I. 生計困難者に対する生活援助事業

1. 自立支援事業

(i) 生活支援プログラム

① プログラム概要

高校や大学、専門学校に在籍する難民（インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民）や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、「生活支援金」を支給した。

② 支給状況

本年度は79名からの応募があり、当法人役員による審査の結果、以下のとおり、43名を支援した。支援金は2か月に1度、銀行振込にて支給した。

- 支給者数：43名
- 支給期間：2018年4月～2019年3月
- 支給総額：5,865,000円／年額（1名あたり10,000円～25,000円／月）

学校種別	人数	出身国 / ルーツのある国
高校	23名	ベトナム9、ミャンマー6、中国3、ブラジル2、コンゴ民主共和国1、ペルー1、シリア1
専門学校	1名	ベトナム1
大学	19名	ベトナム7、中国3、ペルー4、ブラジル2、カンボジア1、ミャンマー1、フィリピン1、

(※ルーツのある国は、受給者数が多い順に記載)

③ 受給者（生活支援生）への対応

i) 個人面談の実施

(iv) 夏期研修会（P.5）にて、役員による個人面談を行った。学業の様子や、進路希望、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。事務局内でケースシェアを行い、別途対応が必要と思われる支援生に対しては、個別対応を行った。

ii) 振込み確認葉書によるサポート

支援金を振り込む際の案内状とあわせて、返信用の振込み確認葉書を送付した。前月の葉書にある支援生からの近況報告に対し、一言コメントを寄せるなどし、顔を合わせることの少ない支援生との関係づくりに努めた。

iii) 課題エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また支援生の関心などを理解することを目的に、エッセイ（800字程度）の提出を義務付けた。本年度は、①記憶に残る2018年の出来事、②卒業後の目標、いずれかを執筆してもらった。

(ii) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称：坪井基金）

① プログラム概要

東洋熱工業株式会社からの株主配当金をもとに、主に理系専攻の大学3年生以上、大学院生の難民（インドシナ難民、条約難民）や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等に対し、学業推進のための「生活支援金」を支給した。

② 支給状況

本年度は、全国から23名の応募があり、同基金の委員による書類・面接審査の結果、以下のとおり、10名を支援した。支援金は毎月1度、銀行振込で支給した。

- 支給者数：10名
- 支給期間：2018年4月～2019年3月
- 支給総額：5,760,000円／年額（1名あたり40,000円～50,000円／月）

学校種別	人数	出身国 / ルーツのある国
大学	4名	ブラジル2、ペルー1、中国1
大学院	修士	5名 中国2、ブラジル1、エチオピア1、イラン1
	博士	1名 ベトナム1

(※ルーツのある国は、受給者数が多い順に記載)

③ 受給者（坪井支援生）への対応

i) 個人面談の実施

(iv) 夏期研修会（P.5）中に、役員による個人面談を実施し、研究への取り組み方、進路、生活状況や家族の様子について聞き取りを行った。

ii) 振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージでのやり取りを行った。

iii) 課題エッセイの提出

坪井支援生としての学業の成果を知ることと、(v) 報告会・交流会（P.7）での発表用原稿として、エッセイ（1000字程度）の提出を義務付けた。エッセイは、当日のプログラムに掲載した。

(iii) パチンコ・パチスロ奨学金（略称:pp奨学金）

① プログラム概要

本奨学金は、パチンコ・パチスロ業界の有志及び来店者からの募金（募玉やコインを換算）を、奨学金として充てる。本年度より、日本人及び元外国籍者に加え、「永住者（特別永住者を含む）」の在留資格をもつ者も対象とした。

② 支給状況

本年度は、全国から49名の応募があり、同奨学金の委員会（委員長＝深谷友尋理事）による書類・面接審査の結果、以下のとおり、22名を支援した。支援金は、2か月に1度、銀行振込にて支給した。※ 初回は3月に事前振込み

- 支給者数：22名（内訳：専門学校2名、大学生13名、大学院7名）
- 支給期間：2018年3月～2019年1月
- 支給総額：13,200,000円／年額（1名あたり50,000円／月）

③ 受給者（pp奨学生）への対応

i) 振込み確認葉書によるサポート

上述の「生活支援プログラム」及び「坪井基金」と同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、近況報告を義務付け、概ね実行された。

ii) 「pp奨学金」式典でのスピーチ

毎年、支援者に対する報告の場として式典を開催するが、支援が決定した学生は、自己紹介と将来の希望についてスピーチした。

④ 委員会

同奨学金の運営委員会を設置した。構成員は以下のとおり。（敬称略）

役職	氏名
委員長	深谷 友尋
副委員長	阿部 恭久 / 小島 豊 / 韓 裕
委員	吹浦 忠正 / 白石 良二 / 松谷 明良 / 大西 康弘 / 福井 章 岩下 博明 / 山田 久雄 / 泰 青 / 高橋 孝幸 / 伊坂 重憲 佐藤 孔一 / 星野 謙 / 岡本 芳邦 / 大野 春光 / 西村 拓郎
会計	柳瀬 房子
監査	日野 洋一 / 高橋 敬子
顧問	篠原 弘志

(iv) 夏期研修会

【助成金】 東京パチンコボランティア基金 300,000 円

【寄付金】 株式会社 シルバーボックス・プリンシパル 1,000,000 円

① 実施目的

来日経緯や学年、出身地域の異なる支援生が交流し合い、また進学や就職など、自らのキャリア形成について考える機会として、毎年「夏期研修会」を開催している。

本年度は、卒業生 13 名の協力により、「私のルーツとの向き合い方」と題した座談会を開催した。参加者は、難民や親の呼び寄せで途中来日した者、日本生まれの者など、来日経緯も様々である。「自分のルーツ」をどのように捉えるか、既に社会に出ている先輩の経験談やアドバイスを聞くことで、今後の学校生活や就職に役立てることを目的に実施した。

② 実施日時

- 実施日：2018年8月19日（日）～20日（月）1泊2日
- 宿泊先：晴海グランドホテル（東京都中央区晴海3-8-1）
- 参加者数：9カ国・38名（高校生14名、大学生19名、大学院生5名）

③ 実施内容

i) 座談会：私のルーツとの向き合い方の開催【1日目】

IT 関連、食品メーカー、コンサルタント、空港や貿易業務、医師、保育士などとして働く卒業生 13 名が集い、前半・後半の 2 部構成で座談会を開催した。座談会では、「自分のルーツについての考え方」、「日本人になること(帰化)」、「進路選択・就職」と大きくテーマを設け、自身の経験をもとに語ってもらった。

第 1 部は、主に就職 3 年目以上の卒業生 6 名に登壇してもらった。



外国人住民の増加に伴い、卒業生の小学校・中学校時代と比べて外国人に対する周りの見方も変化してきているとの意見が述べられた。

過去に外見やカタカナ名で差別を受けたことや、マイノリティであることを嫌い、「日本人」になりたかったという卒業生たちの体験談が語られた。その後、周りから認められたり、理解者を

得られたりする中で、自分が「何人か」ではなく、自分が「どうありたいか」という視点で考えることが大切だと気付いた点も語られた。

また国籍を変えることについて、特に海外出張/渡航の際には大変有効だという意見があった。国籍を変えることで、自身のアイデンティティが揺らぐのでは、という問いに

対しては、大切なことは、自分が受け継いでいる血(ルーツ)や、自分がどうありたいかである。日本国籍を取得できれば、得られる利点も多くあるのに、「書類」上のことに過ぎない国籍の取得について、深く悩むのはもったいないという意見も出された。

第2部は、主に就職1~3年目の卒業生7名に登壇してもらった。



企業の外国人人材への関心の高まりもあり、就職活動の際には、日本人学生との差別化を図るために、あえて自身のルーツやカタカナ名を積極的に打ち出したという意見も聞かれた。

一方で、幼少期から自身のルーツについて周りに打ち明けたことがないという卒業生もいた。

自身のルーツや生い立ちに頼らず、自分自身の実力で勝負する、という気持ちで受験や就職をしてきたという意見は、「ルーツを活かさなければならぬ」と考えていた後輩に新しい視点を与える機会となった。

会場から、母国の慣習を押し付ける親との摩擦について相談があった。卒業生たちも、学校生活や友人関係、結婚など様々な局面で同様の苦勞をしている様子だった。親の考えを聞いた上で、対話を重ねていくことが重要だという助言があった。

ii) 個人面談の実施 【1日目・2日目】

個人面談は、在住外国人に対する相談や在留及び行政手続きに精通した役員計3名が担当した。学校生活や家族及び本人の状況、卒業予定の学生には、進路についても確認した。

高校3年生は、全員大学への進学を希望していた。学生の大半が、一般受験ではなく、指定校推薦を考えていた。推薦入学の場合、入学金の支払いが早いこともあるため資金面についても確認した。

大学4年生は、大学院進学者の他、就職内定率の好調もあり、最低1社は内定をもらっていた。次年度以降も、進学費用や就職活動などに必要な知識を提供していく必要がある。

iii) 課外イベント：浅草散策の実施 【2日目】

午前の個人面談終了後、バスで移動し、スカイツリーを見学した。遠方に住む者や、夏期研修会への参加が初めての学生もいたため、最終日によき交流の機会となった。

④ 参加者アンケート

- ・自分のルーツとの向き合い方について考える幅が広がり、新たに挑戦してみたいことを見つけるきっかけになりました。これからも、アドバイス等よろしくお願いします。
- ・精神的な悩みも少し解消できたし、日常生活やこれからのためにも参考になることが沢山ありました。先輩たちに近づくよう頑張って、後輩たちに教えていきたいです。

(v) 報告会・交流会

① 実施目的

(ii) 坪井基金 (P.3) 支援生をはじめ、日本生まれや日本育ち、また難民として来日した外国にルーツのある学生たちの中にも、国内や国外で活躍できる人材が育っている。学生たちが取り組む最近の研究や学業の成果について報告し、団体/企業や支援者の方と交流する機会として、毎年「報告会・交流会」を開催している。

② 実施日時

- 実施日：2018年12月15日(土) 14時～17時(開場13時半)
- 会場：東洋熱工業株式会社 大会議室(東京都中央区京橋2-5-12)
- 発表者数：5カ国・10名
- 来場者数：34名

③ 実施内容

外国にルーツのある私たちが作る“人や環境”に優しい社会

本年度は、『人と環境』に優しい社会作り」という視点で、医療やIT、多文化共生、宇宙開発やモノ作り技術など、多様な分野で学ぶ(ii) 坪井基金 (P.3) 支援生に、第1部、第2部に分かれて発表してもらった。

■ 第1部：「人」に優しい取り組み

1. 外国人児童の教育の在り方について～国際教室の支援を経た日系ペルー人の事例に基づいて～
(ブラジル・桜美林大学 リベラルアーツ学群 4年)

2. 多様な進路を歩む子どもたちに優しい社会
(ブラジル・東京大学大学院 教育学研究科 修士2年)

3. 人が「持続的に」優しくされうる社会の実現について
(元中国・東京医科歯科大学 医学部 医学科 4年)

4. 地域医療における医師不足の解消に向けて
* 4月から社会人 * (ブラジル・山梨大学 医学部 医学科 6年)



日本の医師不足は深刻です。原因のひとつに、診療科と診療地域の偏在があると言われています。外科と産婦人科が特に不足しており、労働環境が悪化するなどの悪循環も生まれます。また都市部に医師が集中し、地方になるほど不足しています。私は山梨県出身ですが、甲府には医師が多いものの、少し離れた地域になると深刻です。国家試験まで2ヶ月を切りました。合格したら山梨県の医局に入り、地域の皆さんと距離の近い医師になれるよう頑張りたいです。

5. 人に優しいネットワーク世界を構築するための技術：CCN と CCN に関する研究

* 4月から社会人 *

(中国・電気通信大学大学院 情報理工学研究科 修士2年)



父親が難民として来日後、私は高校生で来日し、まず日本語学校に入りました。漫画や日本料理が好きで来日した周りの友人とは違う自分の生い立ちに、初めは抵抗がありました。大学院ではコンピューター・ネットワークを学びました。今研究している「CCN (コンテンツ指向ネットワーク)」という新しいシステムを使えば、インターネットで観たい動画やゲームに直接アクセスできるようになります。世界的にも 2021 年までにこのシステムの確立を目指していて、海外の学会で発表する機会も増えています。

■ 第 2 部 : 「環境」に優しい取り組み

6. 宇宙の解明をもたらす豊かな生活環境の実現について

(中東地域・青山学院大学大学院 修士1年)

7. 精密加工の研究による環境改善

* 4月から社会人 *

(中国・立命館大学大学院 理工学研究科 修士2年)



私の故郷、雲南省は一年中過ごしやすく、多くの少数民族が暮らしています。中国は経済発展で豊かになりましたが、環境汚染が深刻です。そこで環境に優しい「モノ作り」をしたいと考え、精密加工の研究を行いました。そして、加工の最終工程の研磨に必要な「研磨液」と「研磨工具」を開発する上で、工程の短縮と廃棄物の減少に取り組みました。卒業後は農業機器の会社で働きます。環境に配慮した機械を開発し、より豊かな社会づくりに貢献したいです。

8. 環境に優しい植物由来のプラスチックの研究

(ペルー・東京農工大学 工学部 有機材料化学科 4年)

9. 工場用排水の処理技術について ※ 英語で発表

(エチオピア・上智大学大学院 地球環境学研究科 修士2年)

10. 地球環境の改善に貢献するエンジニアを目指して

* 4月から社会人 *

(ベトナム・東北大学大学院 理学研究科 博士3年)



祖父がインドシナ難民として来日し、僕は日本で生まれ育ちました。大学院では超高感度ナノ識別センサーの研究開発を行いました。一方で、趣味の登山を通じ、科学技術の発展が自然破壊にもつながる事実に気づきました。科学技術を環境保護に生かす術はないか考え、幼い頃からの夢である宇宙開発の仕事をする事になりました。宇宙開発はあらゆる分野を応用した学問なので、地球の環境保護に直結する近道だと思っています。夢は 10 年後、明確に環境改善を達成することです。

(vi) キャリア支援：資格取得の応援、就職先決定者への支度金

① 実施目的

経済的に困難な状況にありながらも、日本で教育を修め、社会に出ようとする学生たちのキャリア形成に結びつくような取り組みを実施する。

各内容は、社会人になった卒業生や、団体・企業の協力を得ながら提供する。

② 実施内容

i) 資格取得の応援

就職や進学に活かすことのできる資格試験（英検・TOEIC・TOEFL・日本語能力試験）の受験料を支援する「キャリア支援制度」を、本年度も継続した。

■ 支給者数：15名（高校10名、大学4名、大学院1名）

■ 支給総額：73,825円（英検準2級・2級、TOEIC・日本語能力試験N1・N2）

iii) 就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

■ 支給者数：8名（高校1名、大学4名、大学院修士2名、博士1名）

■ 支給総額：240,000円（1人あたり30,000円）

■ 業種：医療、宇宙・航空、保育、メーカー（農業機器、IT）、観光、サービスなど

2. 学習支援室事業

(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援

【助成】平成30年度 東京都在住外国人支援事業助成 / 【助成総額】1,166,000円

【助成】一般財団法人柳井正財団「難民対象の学習支援室（東部教室）」 / 【助成総額】1,123,614円

① 概要

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語を習得すること」だけを目指す支援ではなく、その自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。これまでミャンマーにつながる方々が受講者の大半を占めていたが、アフガニスタン、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリアなど、他の地域出身者の参加も増えつつある。また、昨年度（2017年度）から新たに錦糸町教室を開講し、東京都東部地域や埼玉県、千葉県在住の難民等も通いやすい環境にて学習支援を継続実施している。

② 実施状況

■ 開催期間：2018年4月1日 - 2019年3月31日

1. 目黒教室：毎週土曜日 10時～18時（必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した）
2. 錦糸町教室：毎週日曜日 13時～17時

※ 錦糸町教室の運営費は、一般財団法人柳井正財団より助成を受けて運営している

■ 開催場所：

1. 目黒教室：さぼりと21事務所会議スペース
2. 錦糸町教室：ROOMS 錦糸町（東京都墨田区錦糸 1-14-7 ティックハウス）

■ 受益者数：2,284名（のべ）

■ 稼働ボランティア数：2,015名（のべ）

■ 登録受講者数：約100名（うち今年度新規登録37名）6歳～70歳

* 国籍：大半はミャンマー（ビルマ）が占め、それ以外は各国数名（アフガニスタン、ウガンダ、エジプト、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリア、ペルー他）

■ 登録ボランティア講師数：約100名（うち今年度新規登録45名）

* 聖心女子大学 SHRET のメンバーがボランティアとして参加。

【 受講者動向 】

■ 進学

都立高校1名（ミャンマー1名）

私立高校4名（中国1名、ベトナム1名、ミャンマー2名）

専門学校2名（イラン1名、ミャンマー1名）

大学5名（ミャンマー4名、ベトナム1名）

■ 日本語能力試験

N1 合格4名、N2 合格3名

【 クラブ活動など 】

ボランティアや学習者が自主的に実施運勢するイベントが行われている。

現在、「さぼりとカフェ」が活動中。フットサルも有志が集い、練習試合など継続。

(ii) 学習支援室関連の行事等

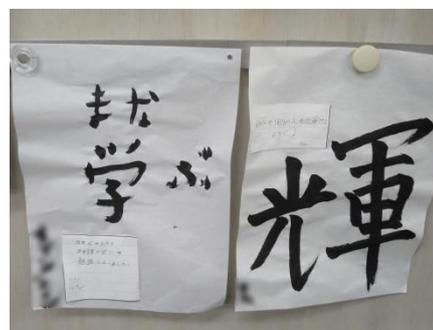
受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、様々な行事を実施。

(敬称略)

4月	27日～	■ 大正大学より実習生の受け入れ2名（～7月まで）
6月	30日	■ BBQ&スポーツの会
7月	7日～	■ 七夕短冊作成（さぼうと21事務所にて展示）
8月	11日	■ フットサル交流試合 （ソルベイスペシャルティポリマーズジャパン株式会社 有志チーム）
	7月27日～ 8月24日（計20日間）	■ 小中高生向け「夏休み集中学習支援教室」実施（参加者：45名） 〔共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学〕 ※助成金事業
9月	29日	■ グローバルフェスタ参加（展示、飲食ブース出展）
10月	21日	■ ダイバーシティカップ（フットサル大会）参加（参加者：7名） 〔主催：NPO法人ビッグイシュー基金〕
11月	10日	■ ボランティア勉強会「外国とつながる子どもたちが抱える課題と支援」 （参加者：10名） 講師：出口 雅子（ピナット～外国人支援ともだちネット）
12月	22日	■ としわすれランチ（企画実施：カフェプロジェクトチーム）
1月	5日～	■ 書き初め（さぼうと21事務所にて展示）
	12日	■ お餅を食べよう会
	26日	■ ボランティア講師・新年顔合わせ会（参加者：44名）
2月	9日	■ ボランティア勉強会「小学生への学習支援を学ぶ」（参加者：11名） 講師：島田 裕子（元東京都江戸川区立葛西小学校日本語学級主任教諭）
3月	23日	■ 学習発表会（参加者：72名 ※発表者36名を含む） 於：目黒さつきビル
	26日～4月4日 （計8日間）	■ 小中高生向け「春休み集中学習支援教室」実施（参加者：40名） 〔共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学〕 ※助成金事業



BBQ&スポーツの会（木場公園にて）



“今年の私”を表す漢字
「輝」：自分も周りの人も輝けるように！

(iii) 委託事業、助成金事業等の実施

① 『生活者としての外国人』のための日本語教育事業

文化庁の助成を受け、今年度も『生活者としての外国人』のための日本語教育事業を実施。日本に暮らす外国人住民（とくに難民）が、言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、個々の「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩の外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、その結果として、関わる全ての人たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していけることを目的に、以下3つの取り組みを実施。

■ 実施期間：2018年5月19日 - 2018年3月9日

■ 事業決算額：2,382,657円 (敬称略)

● 取組1：日本語教育

<日本語教室（難民のための体験型初級日本語講座）>

日本語教育の専門家の指導者のもと、「体験」を中心にすえた初級日本語講座を実施。参加型の学習を通じて、学習者が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるようになることを目標とした。

□ 期 間：2018年6月2日 - 2018年10月13日（春夏講座）

2018年10月20日 - 2019年3月9日（秋冬講座）

*受講時間：各講座 計60時間（1回3時間×20回）

□ 場 所：事務所会議スペース・にほんごタウン

□ 受講者の総数：18名（国籍：ミャンマー、カメルーン、ギニア、コンゴ民主共和国）

□ コーディネーター：田中 美穂子 指導者：田中 康子

指導補助者：川戸 ひろか（春夏講座）、寺澤寿一（秋冬講座）

<生活力向上のためのワークショップ>

生活上で必要となる知識を得ることを目的とし、参加型ワークショップを実施。テーマ毎に専門家を招いて6回実施。正しい理解を促すため、全ての回でビルマ語通訳を配置。

□ 期 間：2018年5月19日 - 2019年2月23日（1時間半×6回）

□ 場 所：事務所会議スペース 他

□ 受講者の総数：のべ93名（国籍：ミャンマー、エチオピア、コンゴ民主共和国、ベトナム、ペルー等。学習支援室ボランティアも含む）

□ 各回テーマ：「お弁当を作ろう」「年金の話」「糖尿病」「歩くことから始める健康」「思春期の子どもとの向き合い方」

□ 講 師：当会ボランティア2名、青山 雅恵（ワカズ・コレティブ生活クラブFPの会）、東京西徳州会病院、薬樹(株)、高橋 えみ子（メンタルクリニック赤とんぼ）



<日本語教室>

料理を通して日本語の学習！



<ワークショップ>

ウォーキングの前に、正しく効果的な歩き方を学びました

● 取組２：日本語教育を行う人材の養成・研修

地域日本語教室で活動するボランティアの方を対象とし、以下３つの講座を実施。

<①ブラッシュアップ講座>

「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語支援のスキルを高めること、また各人が所属する日本語教室の活動を活性化させる意識とスキルをもてるようになることを目指した参加型講座。

- 期 間：2018年9月30日 - 2019年2月3日（1回2時間半×8回＝20時間）
- 場 所：事務所会議スペース
- 受講者総数：34名
- ナビゲーター：奥原 淳子、長崎 清美
- 講 師：上記ナビゲーター2名、荻嶋 初栄、濱川 祐紀代、池田 ゆかり、山形 美保子、矢崎 理恵、野山 広
- 特 徴：「振り返ろう！にほんご支援 ～日々の活動をブラッシュアップするには～」をテーマに、参加者皆で、共に学び、共に考える「参加」型の講座とした。

<② 活動基礎講座>

活動を始めて間もない方向けに、「生活者としての外国人」や「日本語学習支援」についての理解を深め、日本語学習支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化させる意識とスキルをもてるようになることを目的としている。

- 期 間：2018年6月17日 - 2018年10月21日（春夏の回）
2018年11月25日 - 2019年3月3日（秋冬の回）
*受講時間：各講座 計40時間（1回4時間×5回×2期分）
- 場 所：事務所会議スペース、目黒さつきビル会議室
- 受講者総数：47名
- 講 師：近藤 花雪、萬浪 絵理、アンジェロ・イシ、宣元 錫、一条 初枝、黒羽 千佳子、長岡 由剛、岩田 一成、田中 美穂子、大瀧 敦子、新居 みどり

- テーマ：「地域日本語教室に期待される役割」「日本に暮らす外国人にとっての在留資格」「外国人からの相談を受けたら？」「異文化を理解する」って？」「日本語学習支援のきそのきそ」等

<③ 理解を深める講座>

- タイトル：日本につながった私たちの今 ～10代20代を駆け抜けて～
- 日 時：2018年10月28日（日）13時～17時
- 場 所：事務所会議スペース
- 受講者の総数：65名
- 登壇者：温又柔（小説家）、高部 心成（フォトグラファー）、
谷川 ハウ（映像制作会社マネージャー）、宮ヶ迫 ナンシー 理沙（会社員）
- 特 徴：10代、20代を駆け抜けた4人の「もと」子ども達は、今、どんな風に自身の「これまで」をとらえ、どんな風に「今」を生活しているのか、それぞれの立場から話をしてもらった。2019年4月、「環」別冊「開かれた移民社会へ」（藤原書店）に座談会全編が掲載されている。

● 取組3：日本語教育のための学習教材の作成

ワークショップに連動した読み教材により、「生活者としての外国人」が関心を深く寄せるテーマについて学び、外国人住民の生活力を向上させることを目的として実施。外国人住民にとって関心の深いテーマでの教材を提供することにより、「読むこと」への関心を抱くきっかけを提供できたと考える。

- 期 間：2018年12月27日 - 2019年3月15日
- 作成教材：「“働く”を意識した進路選択」※ホームページ上にも
- 主な作成者：(株)進路情報ネットワーク、矢崎 理恵、神村 みどり



<理解を深める講座>

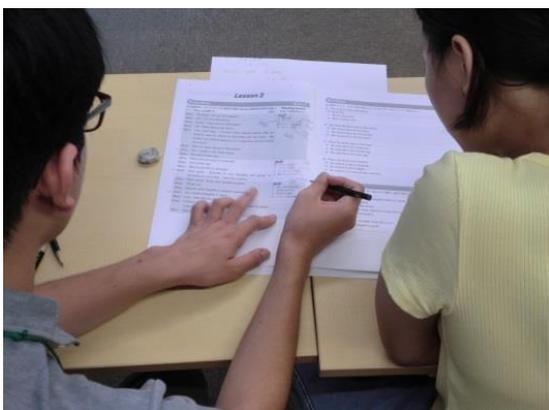
個性豊かな4人の話し手をお迎えしました



<活動基礎講座>

2017(平成29)年度より継続実施

② 難民の小中高生を対象とした「集中学習支援教室」

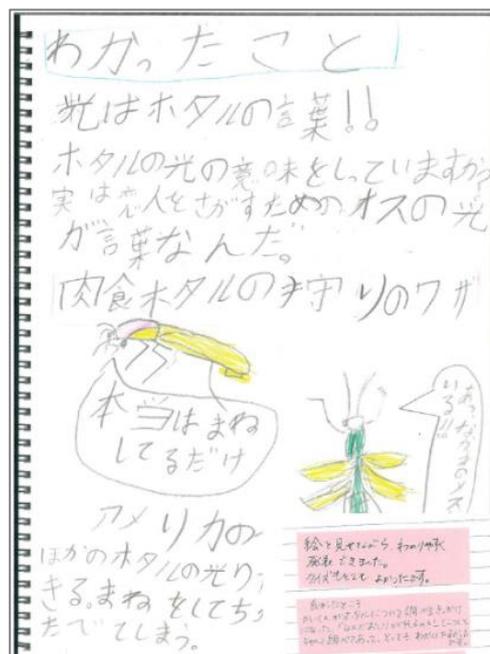


小学生、中学生、高校生を対象に集中学習支援教室を実施。毎週土曜日、日曜日の学習支援では、学校の宿題対応や直近の試験対策に多くの時間が費やされ、小中高生たちの基礎的な学力をつけるという点では限界があった。そこで、2016年夏より長期休暇を利用した「集中学習支援教室」を開催している。学びの機会を提供することで小中高生の日本語力や学力の向上、あわせて学習習慣を身につけ、家庭内での自立学習ができるようになることを目的としている。毎週の学習支援室への参加、集中学習支援教室の参加により、彼らの進学、就職の選択肢が広がることを目指している。

- 開催期間： 2018年7月27日 - 2018年8月24日（夏休みの間、計20日間）
2019年3月26日 - 2019年4月4日（春休みの間、計8日間）
- 開催場所： 明治学院大学白金キャンパス内教室
- 受講者数： 夏休み：45名 春休み：40名
（国籍：ミャンマー、アフガニスタン、イラン、ウガンダ、エジプト、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリア、ベトナム等）
- 学習科目： 日本語（国語）、数学（算数）、理科、社会、英語、小論文
- 共 催： 一般財団法人 柳井正財団、
明治学院大学社会学部・教養教育学部「内なる国際化」プロジェクト
- 事業決算額： 5,104,854円

参加者の声 <受講生から>

- ・ 毎年、毎年、夏休みの間に自分の苦手な教科が少しずつなくなっていくので、自分に合ったスタイルで勉強がやりやすかったです。
- ・ お父さんに教室行くか聞かれたとき、「期間が長い夏休みだからやだな」と思っていたけど、実際1週間言ってみて、説明が詳しくて楽しかった！
- ・ 基礎を一から教えてくれた。丁寧に教えてくれて、分からないところも相談できた。
- ・ 小論文に自信がついた。文がスラスラ書けるようになった。



II. 生計困難者に対する相談事業

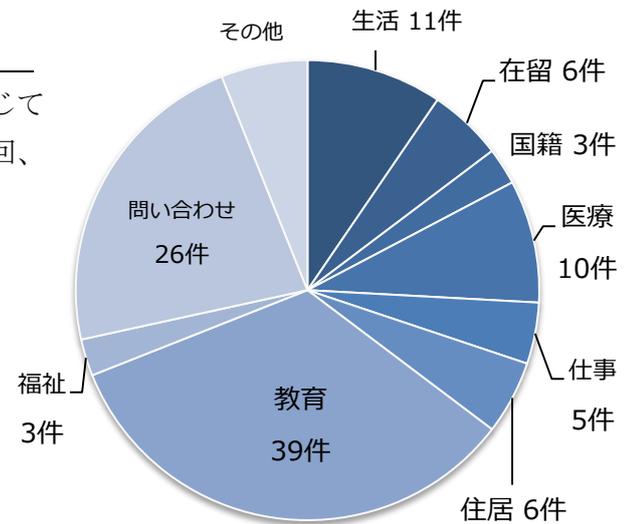
① 概要

原則として、日曜祝日を除く 10 時～17 時に、電話、面談、E メール、ホームページの問い合わせフォームより、各種相談を受け付けた。

② 実施状況

本年度は、以下のような相談が寄せられ、必要に応じて行政や関係団体などへの橋渡しも行った。また月 2 回、事務局長及びスタッフ間でケースシェアを行った他、専門家を招いてスタッフ勉強会を実施した。

件数	116 件（対応回数 217 回）
性別	女性：62 名 / 男性：44 名
地域	17 カ国 2 地域 アジア 9 カ国 1 地域、アフリカ 5 カ国、 中東 2 カ国 1 地域、中南米 1 カ国、



種別	件数	主な内容
生活一般	11 件	家族関係、各種料金の支払い など
在留関係	6 件	在留資格、難民申請関連 など
国籍・戸籍	3 件	帰化申請について
医療関係	10 件	医療機関について、病院同行 など
仕事	5 件	就職活動、アルバイト、社会保険 など
住居	6 件	公営住宅申込み
教育	39 件	日本語教室、生活支援プログラム、進路相談、就学資金 など
福祉	3 件	生活保護、生活の困窮 など
問い合わせ	26 件	取材、ボランティア希望 など

III. 緊急支援

緊急支援事業

経済的あるいは健康上の問題などを抱えながらも、行政機関や他の支援団体から援助を受けられない難民などの外国出身者に対し、人道的な立場から、緊急的に金銭の貸付や支給を行う。本年度は該当者なし。

IV. 広報活動

1. ニュースレターの発行

広報誌『Newsletter』を、本年度は2回発行した。各号は、会員・寄付者、行政や関係団体、CSR活動に取り組んでいる企業など、約700部/回に発送した。

2. ホームページの更新

当法人の活動や、難民などの外国出身者の状況についての周知、また外国出身者への情報提供を目的に、「新着情報」や「ブログ」を更新した。

3. 外部での活動報告

学校や団体、公的機関などからの依頼により、事務局長や現場で働くスタッフが、活動報告や難民等の定住外国出身者の置かれている状況について報告した。

5月	明治学院大学(9日)、難民事業本部(28日)
6月	大正大学(4日)、聖心女子大学(20日)
10月	武蔵野大学(24日)、明治学院大学(26日)
11月	日本工業倶楽部(8日)
1月	LUSH代官山店(12日)
2月	都立小山台高校(1日)

4. パートナーシップ・イベント

姉妹団体のAARや、NPO法人なんみんフォーラム(FRJ)などと協力し、行事の共催や、支援を必要とする方に関する情報の共有を行った。



9月：グローバルフェスタ

グローバルフェスタは、国際協力機関・団体の活動紹介の場として毎年開催されている。学習支援室の学習者とボランティア講師が中心となり、展示と飲食のブースを出展した。

会場：お台場 センタープロムナード（東京都 江東区）



1月：LUSH代官山×さぼうと21

株式会社ラッシュジャパンの代官山店にて、3年目となる「チャリティパーティー」を開催していただき、ご来店者に日本の難民問題や活動紹介を行った。対象商品の売り上げ分をご寄付いただいた。

会場：ラッシュ代官山店（東京都 渋谷区）

V. 団体／企業によるご協力

1. ご寄付

株式会社シルバーボックス・プリンシパル
株式会社 Mari Company
株式会社東京スター銀行
株式会社ラッシュジャパン
コミュニティサロン801
東洋熱工業株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社
むらたクリニック
有限会社 タニパテントシステムズ

2. イベント等へのご協力

株式会社ラッシュジャパン
東京都行政書士会 品川支部
明治学院大学「内なる国際化」プロジェクト
AAR Japan [認定NPO法人 難民を助ける会]

3. 物品ご寄贈

特定非営利活動法人日本アート基金
有限責任あずさ監査法人

4. 「pp奨学金 (パチンコ・パチスロ奨学金)」 運営資金 (iii) pp奨学金 (P.4)

アジカル株式会社
サンキョー株式会社
タイホウコーポレーション株式会社
東京都遊技協同組合
トリックスターズ・アレア有限会社
フシミコーポレーション株式会社
メトロ会館
綾瀬遊技場組合
一般社団法人日本遊技関連事業協会
株式会社 ABC
株式会社カサハラ開発事業
株式会社カツヨシ商事
株式会社ダイヤモンド会館
株式会社ネクスト
株式会社ひぐち
株式会社ビクトリア観光
株式会社ファイブ・プランニング
株式会社マルハン
株式会社ミリオンインターナショナル
株式会社伊藤園
株式会社加賀屋
株式会社九州エース電研
株式会社三栄
株式会社山洋プレイランド
株式会社千歳観光
株式会社大井ニュー東京

株式会社大善
株式会社朝日会館
株式会社名古屋商事
株式会社高橋金太郎商店
岩下兄弟株式会社
岐阜県遊技業協同組合
牛込遊技場組合
戸塚遊技場組合
光が丘遊技場組合
三宝商事株式会社
新潟県遊技業協同組合
深川遊技場組合
杉並遊技場組合
生田遊技業組合
石神井遊戯場組合
全国遊技機商業協同組合連合会
大丸商事株式会社
第10ブロック協議会
都遊連第10ブロック協議会
日本電動式遊技機工業協同組合
日本遊技機工業組合
八王寺・高尾・南大沢遊技場組合
鳳企業株式会社
有限会社丸真産業
練馬遊技場組合

(五十音順・敬称略)

Ⅶ. 役員一覽

理事長	吹浦 忠正	ユーラシア 21 研究所 理事長、元埼玉県立大学 教授
------------	-------	-----------------------------

理事	青木 秀茂	弁護士
	垣平 通世	東北ホモボード工業(株) 代表取締役社長
	小松 博史	日本コンサルタンツ(株) インド高速鉄道推進本部 部長
	野末 尚	東洋熱工業(株) 最高顧問
	深谷 友尋	フシミコーポレーション(株) 代表取締役会長
	山田 寛	元嘉悦大学教授、 元読売新聞アメリカ総局長
事務局長	高橋 敬子	元東京都外国人相談 相談員

監事	沼田 美穂	弁護士
	東川 レバン	レオンテック(株) 代表取締役
	水上 洋一郎	(公財)日韓文化協会顧問、 元東京入国管理局長

顧問	稲岡 稔	ブルリッジ・アストリアス・インスティテュート LLC 東京代表、 元セブン・アント・アイ・ホールディングス 常務執行役員
	河合 弘之	弁護士
	沼田 安弘	弁護士
最高顧問	松永 知恵子	NPO 法人危機の子どもたち・ 希望 理事
	柳瀬 房子	(特非)難民を助ける会 会長

評議員	秋葉 佳子	東京都外国人相談 相談員
	阿部 恭久	サンキョー(株) 代表取締役社長
	池上 清子	日本赤十字社 常任理事、 長崎大学大学院 教授
	大貫 康雄	(公社)自由報道協会代表理事、 元 NHK ヨーロッパ総局長
	岡田 正幸	行政書士
	寺家村 博	拓殖大学教授
	島田 貴乃	ボランティア
	高野 泰宏	高野興業(株) 代表取締役
	田辺 寿夫	ジャーナリスト、元 NHK 国際局 チーフディレクター
	西原 鈴子	(特非)日本語教育研究所 理事長

(2019 年 5 月 現在 / 五十音順)